

# Non-specific symptoms as a prodrome of immune-related adverse events in patients with non-small cell lung cancer receiving nivolumab: a consecutive analysis of 200 patients

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2023-06-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東山, 量子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003028">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003028</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2713 号

Non-specific symptoms as a prodrome of immune-related adverse events in patients with non-small cell lung cancer receiving nivolumab: a consecutive analysis of 200 patients

ニボルマブ投与中の非小細胞肺癌患者における免疫関連有害事象の前兆としての非特異的  
症状：200 例の連続分析

東山 量子（ひがしやま りょうこ）

博士（医学）

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、非小細胞肺癌に対し免疫チェックポイント阻害薬であるニボルマブを投与する毎に確認された非特異的症状（シグナル症状）を認めた患者では、その後の irAE の発症が高頻度であることを明らかにした臨床的に意義ある論文である。ニボルマブ投与患者 200 例中 46 例にシグナル症状が出現し、発熱が 21 例（10.5%）、倦怠感が 31 例（15.5%）に認められ、発熱と倦怠感の同時出現は 6 例であった。シグナル症状は、irAE 発症前の中央値 28 日前に発現することが確認され、シグナル症状はその後の irAE の発症と正の相関があった（OR 14.0, 95% CI 6.10-32.04,  $P < 0.01$ , フィッシャーの正確確率検定）。非特異的症状（発熱、倦怠感）は国立がん研究センター中央病院で免疫チェックポイント阻害薬を投与される患者全員に網羅的に施行されている質問票による問診から集計したものであり、収集を担当する看護師は患者の治療経過や主治医の判断とは完全に独立している。外来受診時に追加の検査なく、どの医療機関でも実施可能な簡便な方法で収集される情報をもとにその後の irAE の発症を想起するという点で本研究は臨床的に実現可能性の高いスクリーニング方法であり、日常診療において非常に意義がある報告である。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。